

就活日誌

- 3年12月 ジョイントなどが終わり漠然と就活について考え始めた。
- 3年1月～4年4月 進路を公務員(宇都宮市役所)に絞り、1度合同説明会に参加したのみで民間での就活をほとんど行わずに面接対策、一般教養の勉強にあたる。
- 4年5月 周りが就活を終え始め焦りが出てくる中宇都宮市役所1次試験受験。
内容は簡単な筆記+集団面接試験。
- 4年6月 市役所1次試験合格。続いて2次試験の作文・個人面接を受験。この頃から「試験におちた場合」の進路を考え始める。
- 4年7月 市役所2次試験不合格。1日真っ白になった後ひたすらリクナビで興味のある会社を探し、エントリーを始めた。
- 4年8月 民間での就活スタート。同時に9月に行われる小山市採用試験に応募。
いくつかの企業で2次面接まで進めたがあまりうまくいかなかった。
- 4年9月 電気系の製造業I社から内定を頂く。進路ができたことに一つ安心しながら小山市1次試験(筆記)受験。
- 4年10月 非鉄金属業T社から内定を頂く。小山市役所1次試験合格。小山市役所2次試験(集団討論+作文)受験。小山市役所2次試験合格。
- 4年11月 小山市3次試験(個人面接)受験。小山市3次試験不合格。
I社の内定を辞退し、T社に進路を決定。

自分の就活を振り返ると、正に「こうなっただけじゃない就活」のいい例だと思う。進路を公務員一つに絞ることで自身のモチベーションを上げたつもりが、結果的に就活を終え進路の決まった回りと、試験に落ちた場合の進路を考えなかった自分を引き比べてかえって焦ってしまった。

そして夏から民間の企業の説明会に参加したが、大手の企業は募集を終えていて、自分のやりたい事を探す幅が狭まっていた。

公務員を受験する人に覚えておいてもらいたいことは、民間で就職する気は無くとも説明会等に参加し、就活を経験する事はとても大切という事だ。近年の公務員試験は場所によっては従来のような教養試験ではなく、いわゆる中学生レベルの五教科テストを課してくるところが出てきた。私が受験した2つの自治体もそうである。

そういった場合差をつけるのは学力試験ではなく面接試験だ。そうなると公務員試験1本をただひたすら対策した人間よりも、民間での就活を経験し面接に慣れた人間の方が成功しやすい面があると思う。

人により就活のスタイルは異なるので、必ずこうしたほうが良いという事は無いが、面接やSPIなどの経験を積んでおくことは、就活において何よりの武器になると思う。